

令和5年度花巻新渡戸記念館運営協議会 会議録

1 開催日時

令和5年12月5日（火） 午後1時30分～午後2時57分

2 開催場所

花巻新渡戸記念館 事務室

3 出席者

（1）委員 4名

木村清且委員（花巻市文化財保護審議会副会長）

佐々木豊委員（一般社団法人花巻観光協会専務理事）

多田アツ子委員（矢沢地域振興会）

福盛田弘委員（花巻芸術文化協会副会長）

（2）事務局（花巻新渡戸記念館） 4名

嶽間澤館長、梅原生涯学習課長、久保田副館長、中島上席主査

4 欠席委員 2名

葛岡貞典委員（花巻史談会）

継枝イク委員（花巻市地域婦人団体協議会事務局）

5 傍聴人 なし

6 議題等（議事録）

◎会議成立の報告（久保田副館長）

構成委員6名中4名出席。出席委員数が構成委員の過半数を超えているので、花巻新渡戸記念館管理運営規則第9条第2項により、本会議が成立することを報告。

1 開 会（久保田副館長）

2 あいさつ

（久保田副館長）

最初に当館館長の嶽間澤より一言挨拶を申し上げます。

(嶽間澤館長)

今日はお忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。1年前に運営協議会を開催し、1年間経ちましたけども、その間にコロナが5類に移りまして、入館者もコロナ以前の入館者数に戻りつつあります。

ほぼ多いときで50～60名ですか、少ないときでも10数名、30人平均くらいの入館者が、ほとんど県外からの入館者でございますので、やっぱり観光客が県外から、あるいは国外から入ってきている、その影響もあるかと思うんですけども、順調に回復しております。

さらに来年の7月ですか、新札が発行になり、新渡戸と関わりのある人物が登場してきますので、そういった関係でまた、関心が高まってきてるのかと思っています。

本日は、令和4年度の事業内容、それから5年度の進捗状況についての説明があるかと思いますが、どうぞよろしく申し上げます。

(久保田副館長)

続きまして当運営協議会会長の木村会長さん、あいさつをお願いいたします。

(木村会長)

先月の20日から30日までの11日間、娘が都合で上海にいたので、何年かぶりに行っていました。花巻空港から直接上海に行ってたんですが、今、ビザがなかなか取れなくてですね。ようやく取りまして、そういう関係で二つほど実は感心してまいりましたんですが、上海の中心部に孫文の奥さんの宋慶齡っていう方の記念館がありまして、孫文の記念館は住宅なんですね。孫文っていうのはご存じの通り中国国民党の創始者になりますけれども、奥さんの宋さんは共産党のかなり重要な役職をやられた方になります。その記念館を見てまいりましたら、なんと、パスポートを提示しましたら、入館がただなんですね。70歳以上がただなんだそうです。65歳以上は半額なんですね。いろんな施設がありましたけど、ほとんど全部そうです。そこら辺は、今後の館の運営の参考になるかなと思ってまいりました。

それから二つ目は、飛行場、浦東（国際）空港から市内まで約40kmくらい、ここから盛岡くらいあるんですが、夜だったもんですから、タクシーの中に携帯を忘れたんですね。それがどこのタクシー会社なんだか誰なのか全然わからない。なんせ人口が2,000万人いるところですから、それで次の日考えようということになって、で考えて、私は何も紛失届を警察に出せば、という話をしましたところが、娘の旦那さんが、いや、ただ預かってそれで終わりなんだという話しだけだったんですけども、まず行ってみたらどうだと、そうしましたら、どこで乗ってどこで降りて、どういう服

装を着てたかっていうことを詳しく警察に聞かれました。そうしましたらですね、娘のマンションの出入口の防犯カメラに全部映ってるんですね。それがやっぱり警察からの連絡なんで開示して、そこでもうわかった訳でして、警察の方からそこを問い合わせしましたらば、どこのタクシーの会社で誰かってこともわかりまして、無事に出てきたんですね。なんせタクシー代が半分なんですね。全部携帯で、なんて言いますか、わかる、すぐもう3分もしないで、どういうタクシーでどういう運転手で、しかもどういう経緯で、お金まで出てくるんですね。決済も全部iPhone、要するに携帯なんですね。ですから換金してきましたけど、現金で使えるとこってそんなに少ないんですよ。ほとんど携帯です。あれはすごいし、タクシーの利用率がずいぶん上がると思うんですね。

ですから、日本もあれは学ぶべきだと思いますし、ああいう管理体制じゃないと13億人の人を管理できないんじゃないかなと、そういうことを感じて、ここ5年間のうちにずいぶん変わりました。ほとんど半分一車の6割近くが全部EV（電気自動）車です。20数年前に行ったときから、全くもう変わってます。そういうその時代の変遷と、記念館とかそういった施設に対する運営システムが、ちょっと今回行ってきて参考になりました。すいません、なんか挨拶にもならないこういう話しですけども、挨拶に代えます。

（久保田副館長）

はい、ありがとうございました。

それでは次第3の議事に入ります。

議長は運営協議会管理運営規則第8条第2項の規定によりまして、会長が行うこととなっておりますので、木村会長さんよろしく願いいたします。

（木村会長）

はい、それでは暫時議事を進めさせていただきます。

では（1）の令和4年度事業及び利用状況等の報告につきまして、事務局のほうから報告願います。

3 議 事

（1）令和4年度事業及び利用状況等の報告について

令和4年度事業報告については中島上席主査から、令和4年度利用状況等の報告については久保田副館長から説明。

（木村会長）

はい、ありがとうございます。皆様のご意見ご質問がありましたら、お願いいた

します。結構盛りだくさんの事業だと思いました。コロナ禍から一旦収束したんで、それからの評価になるんですね。よろしいですか。

どうぞ。

(多田委員)

質問ですけども、来館者についてももう少し詳しく、どのような方々がいらして、どこに目を向けて、視察して、感想とか、もしわかりましたならば、来館者の様子について、もうちょっと詳しくお願いしたいと思います。

(嶽間澤館長)

いつもはですね、来館者の方々に感想書いてもらうノートみたいなのを置いて、名前書く人もいますし、どっから来ましたとかですね、そういったのでこの運営協議会にも抜粋して報告してました。ところが今回はですね、そういったものを使えなくなっています。時々聞く感想は、やはり新渡戸稲造さんてすごい人だねとか、岩手県出身と花巻にゆかりのあった人だね、ということですね。入館者はどういう方々とか、年代とか、それから感想は今ちょっと集めてない状況なんです。コロナ禍の前でしたら、かなりの情報・感想を書いていただいたものを報告してましたけれども、報告できるだけの材料が今はないんです。

(多田委員)

ありがとうございました。

(福盛田委員)

いつも館長さんの講演会が、学校関係であったはずなんですけど、今年はなかったんですかね。矢沢中学校でも依頼なかったんですか。

(嶽間澤館長)

そうですね。学校現場は少なくなってきましたし、矢沢は、なかったですね。

やっぱりコロナの影響もありましてですね、嬉しかったのは、今年の1月に市内の小・中学校の校長研修会に呼ばれて、生涯学習推進センターで中部教育事務所長さんとか教育委員会からも指導主事が来て、小・中学校の校長さんたちにお話しする機会が得られたのは良かったです。実際、今は学校に行って子どもたちに話しをする機会は皆無ですね。というのは現場も忙しいんですよ。

それから、どういう人を選ぶ・呼ぶかっていうことで、今それぞれの学校で抱えている課題があるでしょうし、それからコロナの影響もすごくあるんですね。これから増えてくるかどうか。校長さんたちにはお話ししました。PTA研修会・職員研修会、それから子どもさんたちの社会科、5分でも10分でもいいですから、ぜひ呼んでくださいと依頼をしてきました。

(福盛田委員)

やっぱり地元なので、毎年矢沢中学校ではやってくれるようにということで。

(嶽間澤館長)

一年生は勉強してますし、ただこういう状況なので、なかなか講演会は。これから
はまた復活すると思いますが、矢沢中学校は、去年なかったんだよね。

(久保田副館長)

そうですね。

(嶽間澤館長)

それ以前は、ずっと続いてますし、一年生は特に。

(久保田副館長)

資料1の2ページにありますとおり、昨年の学習活動等での講話は東京の普連土学
園と拓殖大学だけで、矢沢小・中学校はありませんでした。

(福盛田委員)

今年は期待したいし、お願いしたい。

(久保田副館長)

今年も今のところは、まだ（依頼は）ありません。

(嶽間澤館長)

増えたのはシニア大学の講演会で、3回ほどシニア大学のほうに呼ばれました。

(福盛田委員)

矢沢中学校には、新渡戸ホールっていうホールがあるので、学校に入っている人た
ちは、何で新渡戸ホールっていうんだってわからないと困るんで、やっぱり1年生向
けに、PRして講演等していただければ、理解してもらえるかなと思ってますので、
よろしくお願いします。

(佐々木委員)

今年いろいろ観光の回復状況の中で、いろいろな場所に出向くたび聞かれるんです
けど、だいたい花巻の場合は、宿泊にしても、宿泊がある程度基本になっているんで
すけど、花巻市を訪れた観光客というのは、およそ8割……コロナ禍前との比較で、
8割って言っているし、ほぼその前後と思っているんですけど、ここでそのコロナ禍
前の割合で見ると、50%か40%ぐらい。前年比・前年対比が143%だけれども、一番
基準にする目安として、そのコロナ禍前の数字にどれだけ戻っているかというのが、
一つの基準に。

(久保田副館長)

はい、資料2の1ページに平成30年・令和元年度のコロナ禍前、令和元年度の年

明けからコロナが始まったと思いますので、令和元年度は一部コロナ禍に入っていますが、まず平成30年度・令和元年度が12,000人とか11,000人の入館者で、昨年度は7,000人でしたので、コロナ前と比較しますと6割りぐらいですか、昨年度では。ただ昨年度も一応コロナ禍にはあったので、次のところで説明しようと思っていましたが、今年度5月からコロナ5類になって、

(佐々木委員)

今年度上期の分で見れば、順調にいったるかな。

(久保田副館長)

今年度は先月11年末の時点で、7,100人ほどと去年の人数にほぼ近づいています。

(佐々木委員)

そうですね。なるほど。

(久保田副館長)

この先4ヶ月ありますので、次のところで説明しようと思っていましたが、令和5年度については、目標値に11,000人くらいを見てましたので、そこまで届かないかもしれないですが、そこに近づけるかなとは考えておりました。

(佐々木委員)

はい、ありがとうございます。

(木村会長)

それでは議事を進めます。

(2) の令和5年度事業計画につきまして、事務局から説明をお願いします。

(2) 令和5年度事業計画について

令和5年度事業計画について、資料1を中島上席主査から、資料2を久保田副館長から説明。

(木村会長)

はい、ありがとうございます。

それでは令和5年度の事業をご説明いただきました。質疑等ございましたら、伺いいたします。ないでしょうか。入館者も回復の兆しにあるということですね。

(福盛田委員)

10月に開催された新渡戸フェスティバルのめんこいテレビプロデューサーの工藤さんですが、なかなか内容のある、ずいぶん研究されてる方だと思っているんですが、こういう人たちを選考する、見つけるためにどういうルートで見つけるんですか。

(嶽間澤館長)

「新渡戸稲造辞典」の出版記念パーティーが東京でありまして、そのときに、たまたま隣同士の席になり、「どこから来たの」「岩手」、そして「さっき神田に行って新渡戸の書籍買ってきました。これ見てください。」『ああ好青年』、まだ40代ですけどね、新渡戸ファンなんですよ。

そして彼はその仕事について、様々新渡戸に関する番組を作ってます。かなり新渡戸に関しては詳しく、マスコミの中で、いろんな取材を通して知ってること沢山ありますから、今回講演を依頼してみました。

(福盛田委員)

なかなか、めんこいテレビでも放送されてますけど、名前まで見ることはないから、これだけ詳しい人、めんこい(テレビ)にいるんだなと思って、感心しました。

(嶽間澤館長)

(講演時間が) まだまだ足りなかったですね。

(福盛田委員)

そうですね。

(嶽間澤館長)

本人には、2回目・3回目をやるかって話しをしてますけれども、ジュネーブ行ったり、フィンランド行ったり、カナダ行ったり、あちこち新渡戸さんが行って活動した場所で取材してますね。

(福盛田委員)

なかなか(会社から)経費出なくて、自分の経費でも行っているみたいで、大変熱心な方だなと思って聞きました。

(多田委員)

感想みたいなことです。

この日、私ちょっと予定があって(新渡戸フェスティバルに)参加できなくて、今お話しをお聞きして、非常に残念な思いです。機会があれば、また再び、この方の講演会などあればいいなと聞きました。

(嶽間澤館長)

新渡戸さんの講演会はどこの会場へ行っても、私が一番若かったんですよ。私より若い40代の、しかも盛岡の若者が来てですね、私も非常に感動しました。なかなか若い人たちが来ないのが、新渡戸さんの会合なんですよ。

来年は後藤新平記念館の館長にお願いして、後藤新平との関わりを。今年研修に行ってお話ししてきましたので、元校長なんですけども、かなり詳しく勉強してます

よね。来年の講師は、後藤新平記念館の館長さんに（お願いする予定ですので）、再来年以降にまた、工藤くんをお願いしようかなと思っています。

（福盛田委員）

やっぱり映像も映しながらで、迫力あるんですよね。皆さんも、こう飽きないで聞いていたようなんで。

（嶽間澤館長）

そうなんですよ、私とか（新渡戸基金の）藤井さんは、喋るばかりで。映像はいいですね、確かにね。

（木村会長）

後藤新平記念館の訪問に、ちょっと私も行きたかったんですが、どんな感じだったんですかね。確か（新渡戸稲造は）後藤新平に乞われて、なかなか行きたくないんだけど、やっと向こう（台湾）に行ったんですよね。1年くらいですか。

（嶽間澤館長）

行きと帰りの車中で、私マイク持って、新渡戸稲造と後藤新平の関わりを説明してきました。

（中島上席主査）

記念館では、40分ほど館長さんにご説明いただいて、そのあと3ヶ所ぐらいに別れて、それぞれの担当の方にお話ししていただきました。そのあと外に出て、後藤新平記念館長に案内していただきながら、後藤新平旧宅まで歩きました。旧宅のほうは、武家屋敷資料館の館長さんにご説明いただいて見学したところです。午前中だけの見学ということで、今回は20名募集したところ、30名ほど集まりまして、抽選させていただいて20名で行きました。

（嶽間澤館長）

感動してきたのは、新渡戸稲造が後藤新平に宛てた封書、手紙が保管されていました。新渡戸さんは几帳面ですから、新渡戸さんがもらった手紙類は、いっぱいあります。ただ新渡戸さんが外に出した手紙は、内村鑑三はじめほとんど残ってません。後藤新平は綺麗に残してたんですね。そして、その中に後藤伯爵に三度も口説かれて、台湾に行く決意をしたっていう内容になってますね。新渡戸さんの封書残ってました。新渡戸さんが出した手紙、私初めて見ました。

（木村会長）

水沢（奥州市）の前の教育長に話しをしまして、学芸員の佐藤さんといったかな……その辺のところで、ちょうど菊地邸が、国の登録有形文化財の指定になって、その辺新渡戸稲造と一緒に菊池捍さんも（台湾へ）行って、新渡戸さんは1年で帰っ

てくるんですけど、（菊池捍さんは）9年間—そこら辺の様子何か資料ないのか、という話しをして、そしていろいろ調べていただいて、今新渡戸もまだこれといったものもありますから、そういう書簡のやり取りの中で、花巻にゆかりのある菊池捍さんとか、するとやっぱり医大の関係の生徒さんですかね。台湾の国は、何か医大はあって、3人か5人台湾から、若い生徒さんを（日本の）医大に留学させて、そのまま日本に残った方々。入口のことをもう少し詳しく知りたいなと思ったりしました。その実像みたいなものを。台湾で、たまたまロータリークラブの集まりに、台湾の大学に留学してる子がいて、何でもお役に立ちますよって話しもあったものですから、その辺のところを伝えて、業界研究者に今館長さんがおっしゃってましたが、関心を持っていただくようなことができればなあというふうに思っておりました。

他にございますか。よろしいですか。

それでは次の（3）の令和6年度の事業計画（案）につきまして、事務局から説明をお願いします。

（3）令和6年度事業計画（案）について

令和6年度事業計画（案）について、資料1を中島上席主査から、資料2を久保田副館長から説明。

（木村会長）

はい。ありがとうございます。

（3）の令和6年度の事業をご説明していただきました。皆様のご意見を賜りますので、いかがでしょうか。

（佐々木委員）

すいません、展示事業で令和6年6月15日から9月29日[特別展Ⅰ]で、「新渡戸稲造の著書展示Ⅲ」という展示は、今年はⅡということは、これはずっと続きっていうような感じのものですか。

（嶽間澤館長）

新渡戸さんの書籍って「武士道」が非常に有名なんですけど、英語で書いたり、ドイツ語で書いたり、日本語で書いたり、日本語で女性対象に書いたり、青年対象に書いたり、40数冊ほどの書籍があるんですよ。それを知らしめたいなと。

代表的なのは「修養」とかですね。日本のベストセラーは「修養」と世界のベストセラーは「武士道」です。英語で書いてある。様々な女性の生き方を説いたりですね、若者の生き方を説いたり、実にバラエティーな、海外の自分の留学経験を100話載せた本とかですね。彼の書籍の紹介を1年でやろうと思ったら、とてもスペースが

足りなくて、それで代表的な、24冊から25冊ぐらいでしょうか、3年に分けて8冊ぐらいずつ、こういう本ですよってですね。そして当時の1円50銭とか80銭とか値段のついてた実物もありますから、そういったものをです。来年で一応完結する予定でございました。

彼の書いた本で結構知られていないんですよ。当時はテレビもラジオも、もちろんありませんから、入ってくる情報は本とそれから雑誌・新聞・講演ぐらいですね。ですから、お金のある人は結構本を買って読んでるし、あるいは新聞。それから婦人雑誌も結構出てまして、「婦人の友」と「婦人画報」なんてのも当時あるんですよ。それも今年展示しました。

(多田委員)

本当に感想みたいなものなんですけど、私もちょっとだけ書籍展見させていただきましたが、手に取ることができないんですね、表紙だけ。でも、その膨大な量については、本当に感動しました。これで企画展の際に館長講話の時間、博物館などでは館長講話というのは時々ございますけども、そういうことについては、ご計画などがございましたでしょうか。やっぱりお話しを聞いて見るのと、ずらずらっと見るのとでは、かなり内容が違ような気がしますので。

(嶽間澤館長)

依頼があればすべて受けて、お話しさせていただいています。

もしご希望でしたら、こんな本には、こういうことをと紹介してますというリーフレットがありますから。ⅠとⅡありますから、Ⅲは来年。

(木村会長)

この「島善鄰 没後60年」に関して、そもそも北大（北海道大学）との関係ですね、佐藤昌介先生と。非常に新渡戸稲造と佐藤昌介先生の北大の展示、ブースっていいですか、凄まじい量といいですかね。何かあの辺、私も2回ほど行きましたが、花巻から来たというだけで、大歓迎してくれますよ、そんなに知らないんだけど。ですから、何かそういう島善鄰との関係、全体像がわかるようなものがあれば。

(北海道大学は)今結構偏差値が高くて、岩手県からの生徒さんも少ないようですから、当時は結構たくさんいておりまして、随分いろんな先人も輩出しているようですし、岩手出身の学生が入っている巖鷲寮ですか、あれが数年前に新築されて、鉄筋コンクリートの立派なマンションになっているみたいですけど。

今回の島さんの顕彰とかも、特に全体像みたいなものがわかれば、若い人たちも。至誠天地を動かさんとか、何かどっかで聞いたことあるような、新渡戸の展示コーナーの脇に書いてるんですね。何ということない、北高（花巻北高校）のアレ（校

歌) なんです。だから、(佐藤) 昌^{あきら}先生が……昌^{さかり}先生ですか、(佐藤) 昌介先生の甥子さんが、北高の初代の校長先生で、そのときに北大の寮歌とか校歌を真似ていたんじゃないかっていうのがあって、そこでああいう歴史が北高に加わるように感じるんですけども、その辺現役の高校生のお子さんに話しをして、少しは北大を受ける子が増えれば、いいのかなと思ったりしております。

孫娘が今高一なんです、さっぱりわからないって言ってますね。やっぱり少しその辺のところ、新渡戸記念館として、そういう周辺のところ広く層を拡げるようなところがあればなあなんて思ったりしております。

どうぞ。

(福盛田委員)

矢沢の振興センターの地域総会でも、今度、来年度ですね島善鄰の没後60年記念を企画しようとしているところで、その前段として、だいたい11月末から12月の初頃講演をお願いしようかと思って探しているところなので、ぜひ嶽間澤館長さんなり中島(学芸員)さんでも、お願いして講演してもらおうかなと考えておりますが、明老大学と胡四王史談会と合同での講演会になります。そういう企画を予定してますので、その節は講演のほうよろしくお願いしたいと思います。

(嶽間澤館長)

あの先生いたじゃありませんか、阿部先生。

(中島上席主査)

阿部先生いますよね。

(福盛田委員)

阿部先生ですか。

(中島上席主査)

第一人者の。

(福盛田委員)

阿部先生のグループとも合同なんです。りんご博士の、りんご生産組合の人たちなんかと一緒に、ただ、コロナがあって、2～3年休んでたんですよ。いつも矢沢(振興センター)使って顕彰会ってことで、あの顕彰碑のほうは、お聞きしてやってるんですが、なんか先立つ人たちも亡くなったり病気になったりして、なかなかちょっと進まなくなっているの、阿部先生のときの話しも、顕彰会のとき、20分ぐらいはお話しはされてるんですけど、せっかくここで企画展やるのであれば、その事業の中でも前段として話ししていただければ、やっぱり見に来る人もあるのかなと考えてますから。

今年は、ちなみに12月18日には「矢沢の歴史について」、今度博物館の館長さんをお願いして、10時からやることにしてますので、毎年1回はやってるので、その企画として、今交渉してたので、ぜひお願いしたいと思います。その節はお願いします。

(嶽間澤館長)

いえいえ、島善鄰は阿部先生ですよ。

(木村会長)

他にございますか。

それでは(3)の令和6年度事業計画(案)については終わらせていただきます。最後になりますが、(4)のその他につきまして、事務局のほうから説明をお願いします。

(4) その他について

本日欠席の葛岡委員から、メールで記念館に届いた「新渡戸ロード」の顕彰活動を要望する件について、嶽間澤館長より内容と経緯の説明。

(佐々木委員)

「新渡戸ロード」できてるじゃないですか、立派にというか。「新渡戸ロード」ってそんな次々出てくるものじゃないでしょ。

(嶽間澤館長)

ただ、記念館としてですね、ちょっと気になるのは、例えば10番目のメリーの小道ってあるんですよ。

(佐々木委員)

ええ。

(嶽間澤館長)

これを見ますとですね、(佐藤)孝先生何て書いてるかっていうと、その看板には亡くなった、昭和8年に亡くなったんですよ。そのとき追悼記事として岩手日報に、その当時の記者が、明治の24年にメリーさんと結婚して日本に戻って来て、その足でこの花巻に寄ったというような記事を見つけたって書いてあるんですよ。ところが、42年前のことで、このとき書いた記者は事実確認をしてないんですよ。実際には、盛岡まで列車・鉄道は開通していましたが札幌に戻るには、盛岡から先はなかったんですよ。それでどうしたかっていうと、仙台で列車から降りて、そして石巻から船で函館に行ってるんですよ。函館からまた小樽まで船で行って、小樽から札幌までは、また列車で行ってっていう経緯で、(新渡戸基金の)藤井さんにも指摘され

ましたが、花巻に来たっていうことは、実はないんですよ。だからこの点も含めてですね、当時、このスタートした頃は観光協会さんが窓口になって、そしてガイドさんが付いて案内したと。

(佐々木委員)

みたいですね。

(嶽間澤館長)

それで、ここの記念館は、直接関わってはいなかったんですよ。

(佐々木委員)

毎年時期を決めて観光協会なり、観光協会が一番手っ取り早いと思うんですけど、「新渡戸ロード」を歩くプランを作って、募集して、歩けばいいんじゃないですか。

「新渡戸ロード」を（新しく）作るんだったら、どうするかならうけど、ロードはもうできてますし。

(嶽間澤館長)

作ることじゃなくて、葛岡委員が言うには、そういったものをもっと積極的に活用しようということじゃないですか。

(佐々木委員)

積極的に活用しよう、はい、わかりました。

(嶽間澤館長)

あまりに素直に返事をいただけて、そういう要望があるっていうことで。

(佐々木委員)

観光協会のホームページにプラン作って企画して、何時出発・何時終了で、やればいいことで。

あと何かもっと欲しいのであれば、ここ何番目まで制覇したら、何かそこでポイントがあって、何番まで制覇したら何々、完全制覇したら新渡戸記念館の入館無料1日分プレゼントとか、ちゃんとくっつけて、最後まで歩かせて。

(嶽間澤館長)

ああそうですね、そういう返事を観光協会さんからいただければ、大変ありがたいです。

(佐々木委員)

来年度、令和6年度に向けて、前向きに計画取り組んでいきます、ということだと思います。

(嶽間澤館長)

そういうふうに観光協会さんのほうから、返事いただいたということでよろしいで

すか、会長さん。

(木村会長)

いいと思いますよ。

(佐々木委員)

返事は観光協会ではなくて、観光協会がそう言ってますでもいいので、観光協会ではなくこの会からとして返事を出さなきゃないんですよ。

(嶽間澤館長)

運営協議会の中で、こういうふうに話し合っ、観光協会さんが前向きに検討するというような返事をいただいた。

(佐々木委員)

それでいいんじゃないですか。

(嶽間澤館長)

そういう返事でよろしいですか。

(木村会長)

今までの経緯をね、精査して。

(佐々木委員)

実際観光協会が、過去は取り組んでた時期があったんですね。何かの事情で、コロナか何かわからないけど、何かの事情で途切れたかどうかはわかりませんが、こういうプランは、むしろ逆に観光協会でも探してたっていうか。

(嶽間澤館長)

そしてボランティアさんたちが対応して。

(佐々木委員)

そうですね。ボランティアもいるし、最高のプランはできるんじゃないかなって今直感的に思ってます。

(嶽間澤館長)

先ほど（観光協会の）佐々木さんから依頼があって、1月にボランティア養成講座をまた頼まれましたので、そのときに「新渡戸ロード」ってありますよとガイドさんたちに触れますので。

(佐々木委員)

今年またガイド養成講座に、10人新しくメンバーが来てまして、今研修中です。それこそね、先生今言ったけど。

(嶽間澤館長)

さっき依頼されました。

(佐々木委員)

だからね、ガイドさんもこれからどんどん増えていく。

(嶽間澤館長)

その中でも扱うようにしたほうがいいですね、花巻にこういう名所がありますと。

(佐々木委員)

よし、来年は新渡戸の年にしましょう。

今年、(宮沢)賢治終わったし、没後90年終わったし。いやロードをこれから作れっていうんだったら大変だけど、できているので簡単な話。

(梅原生涯学習課長)

ちょうどこのロードができたばかりのときに、私広報だったので一緒に歩きましたが、花巻駅を出発して、花巻郵便局のどこまでをこう歩く感じでしたよね。

(福盛田委員)

私、これ起ち上げるとき一緒だったんで。(佐藤)孝さんと一緒にやって、どうだっていうことでやって。

(佐々木委員)

そのご苦勞を活かしましょうよ。

(福盛田委員)

正直こんな感じでっていうことで、今も残ってますけども。ただ立ち上げて実施して、ボランティアガイドも要請して、やったんですけど、なかなかこれ、新渡戸となると宮沢賢治とは違って難しいんですよ。

それでガイドの方も何人かしかできなかったんです。そういう要素もあって、それからさらに、このコースを歩くお客さんがいなかったんですよ。それで、だんだんに尻つぼみになって、駄目になっちゃったんですけども、まだそのコースはそのまま残ってますので。

(木村会長)

あのメリーの小道っていうところが、ちょっと何かぼかしたほうがいいんじゃないですか。

(嶽間澤館長)

ここね、カットするか。メリー夫人は實際来てないんですよ。

(佐々木委員)

メリーの小道、見てみます。

(嶽間澤館長)

日報の記事に来たっていう記載があるってこと。その記者は多分、この明治24年

に生まれてるか生まれてないかの記者だと思う。42年前のことですからね。

ただ、明治23年に岩手稗貫東和賀・西和賀の郡庁一郡役所は花巻にあったので、太田時敏は花巻に勤めてたんです。それで2月に横浜港に太田時敏は（稲造夫妻を）迎えに行って、呉服屋で紋付を買い与えたりしているんですね。2月の12日は横浜・東京で会ってるんですよ。その札幌へ行く途中に花巻に寄ったんじゃないかっていう、寄ったっていうその記事は新聞記事なんですよ。だから新聞記事がすべて正しいとは限らないですね。

（福盛田委員）

当時、このメリーの小道がやっぱり特徴あるとこだと思って、ずいぶん力を入れてありまして、なかなかそういう推察のところもあったんで、たぶんここに来ればここ歩くんだから、裏をこう通っていったらうって、昔のね、歩く道なんかそんな感じだったんで。

（佐々木委員）

すみません、1回そのメリーの小道もちょっと調査してみます。実際1番一新渡戸記念館から花巻駅まで歩いてみて、勉強させてください。

（福盛田委員）

最初の頃はね、ある程度広報で募集して、このロードを歩きませんかというPRもしてもらったりして歩いたんだけど、その頃10人ぐらい集まったかな。それでガイドも付きながら、研修兼ねながら（佐藤）孝さんと一緒に歩いたんだけど、あの結構長いですよ時間コースも、そういうのもあって、花巻市民の人たちもあまり参加しないのに、今度他から来た人たちが加わったり、参加してくれるのか、時間的なことも考えて……自分でロードを回って歩くと一日中かかりますよ。そんなこともあって、なかなか発展しなかったんですよ。

（木村会長）

はい、よろしいでしょうか。

それでは、これで計画の説明、質疑を（1）～（4）まで終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

（久保田副館長）

特にその他、何かありましたら。

よろしいですか。

4 閉 会（久保田副館長）